

横浜発 『みんなにやさしい介護のフロンティアを目指す』 プロジェクト

横浜市は、利用者にも事業所にも介護従事者にも、『みんなにやさしい介護』で、明るい未来をつくりたいと考えています。

横浜市の地域密着型サービス事業所が一丸となって、このプロジェクトを推進することで、横浜から介護の新ステージを発信することができると思っています。ぜひ、このプロジェクトに参加してください！

そして一緒に明るい未来をつくっていきましょう！！

プロジェクトで目指すものは？

ズバリ『みんなにやさしい介護』です。

「みんなにやさしい介護」とは・・・

利用者に「やさしい」

できる限り、自分らしい（自分が望む）、生活を営むことができます。

家族等の介護者に「やさしい」

要介護者の状態を維持・改善することで介護の負担を軽減します。

介護従事者（スタッフ）に「やさしい」

ケアにより状態の改善を実感でき、働き甲斐、充実感が得られます。

事業所に「やさしい」

利用者・家族・他の事業所から信頼されることで利用者希望が増えます。また、介護従事者がやりがいを感じる事業所となることで、介護従事者の定着や新たな人材確保（就職希望）につながります。

このように『みんなにやさしい介護』の好循環を作り出せたら、すばらしいと思いませんか？

『みんなにやさしい介護』にするためには、どうすればよいのか？

市内には、様々なタイプの事業所がありますが、各事業所において、自立支援にしっかりと取り組むことが重要であると考えています。

では、自立支援に取り組むとは具体的にどうすればよいのか？

横浜市では、次の2つの視点で自立支援の“ケア”を実践している事業所（または目指している事業所）を応援していきたいと思えます。

● 「能力を引き出すケア」

当事者の「自立」を目指し、必要なものを用意し環境を整え、現有能力・潜在能力を適切に引き出す関わりをすることで、生活の営みを支援するケア。

● 「自らの意思で選択することを支援し、個人のニーズにあったケア」

当事者の「自立」を目指し、自分の意思で選択し行動や生活ができるよう、画一的なプログラムを行うのではなく、個人のニーズ・状態にあったプログラムを提供するケア。

ここで、「介護保険法」の“目的”を再確認してみましょう！

介護保険法

（目的）

第一条 この法律は、加齢に伴って生ずる心身の変化に起因する疾病等により要介護状態となり、入浴、排せつ、食事等の介護、機能訓練並びに看護及び療養上の管理その他の医療を要する者等について、これらの者が尊厳を保持し、その有する能力に応じ**自立した日常生活を営むことができるよう**、必要な保健医療サービス及び福祉サービスに係る給付を行うため、国民の共同連帯の理念に基づき介護保険制度を設け、その行う保険給付等に関して必要な事項を定め、もって国民の保健医療の向上及び福祉の増進を図ることを目的とする。

では、具体的に何をするのか？

① エントリーシートの提出

事業所のみなさまには、このプロジェクトに参加する意思表示として、まずは「エントリーシート」を作成・提出していただきます。

このエントリーシートを作成することで、これまでの貴事業所での自立支援の取組を振り返っていただくことができます。

このプロジェクトの活動は、「自事業所は、真の自立支援を実践できているか？」を、振り返り・見直すことから始まります。

② プロジェクト推進事業所として認証（約3年間の有効期間有）

エントリーシートの内容から、自立支援に効果的なプログラムを実施しており、本プロジェクトに参加して、さらなる自立支援の推進に取り組む意欲がある事業所を選び、プロジェクトの推進事業所として認証します。

★認証事業所には、認定証及び認証ステッカーを配布します。

★認証事業所は、市ホームページ等で、利用者やケアマネジャーへ周知していきます。

③ 特に優れた取組、独自の取組を行っている事業所を表彰

エントリーシートに記載いただいた具体的な内容から特に優れた自立支援の取組を行っている事業所を表彰していきたいと考えています。

★表彰事業所には、表彰式にて表彰状を授与します。

★表彰事業所には、表彰ステッカーを配布します。

★表彰事業所には取組事例の公表を行い、市内の他事業所及び市民のみなさまにも、その取組を広めていきます。

★表彰事業所についても、市ホームページ等で、利用者やケアマネジャーへ周知していきます。

『みんなにやさしい介護のプロ』の3つの条件

●「知識」があること

介護の世界は日々進化しています。また、一人ひとり身体状況や病態が異なるため、適切な介護を行うためには「知識」が必要であり、学び続けることが重要です。

●「技術」があること

効果的な自立支援・適切な介護を実践するためには根拠ある介護技術が必要で、より高い介護技術を身に着けるため学び続けることが大切です。

●「思い」があること

利用者一人ひとりとしっかり向き合い、必要な支援を真剣に考え、実施する姿勢が必要です。よりよい支援を継続していく、また、新しい情報・知識・技術を学び続けるためには、職業倫理を理解し、そこに向かうための原動力と「この仕事を始めた時の思い」を継続して持ち続けることが必要です。

横浜市から事業所の皆さまへ伝えたいこと

『みんなにやさしい介護』を実現するため、市内の全事業所において「能力を引き出すケア」・「自らの意思で選択することを支援し、個人のニーズにあったケア」を実践していただきたいと考えています。

事業所の皆さまには、既に自立支援に取り組まれていると思います。しかし、その取組が、本当の意味での自立支援につながっているか、これまでの介護の常識にとらわれずに、改めて振り返ってみてください。今一度、サービス提供のあり方やプログラムの内容、利用者への関わり、介護の「知識」と「技術」、といったことに留意して見直してみてください。

また、自立支援に取り組むためには、スタッフ全員がしっかりと考え実行できるようになること、そして、事業所としてスタッフを支える環境（理念・教育等）を整えることが求められます。

市内には様々なタイプの事業所があり、それぞれ様々な方法で自立支援に取り組まれています。自立支援の手法はひとつではありません。利用者一人ひとりの「自立支援」に取り組むことは容易なことではありませんが、このプロジェクトを通じて、効果的な自立支援の取組を共有することで、横浜市の地域密着型サービス事業所の皆様と一緒に「みんなにやさしい介護」の好循環を作っていきたいと思います。